第12回協議会を開催しました

頓田中学校区
適正配置地域協議会
だより

第12号
平成25年10月

十月一日（火）の午後六時三十分から、大分文化会館第二小ホールにおいて第十二回の協議会を開催しました。

前回の会議では、今後の協議会の進め方について、会長・副会長と協議会の事務局とで協議することを確認しました。

そこで今回の会議では、議事一で各校区の特長やアピールポイントについて、まずは各校区から十分以内で発表することとなりました。

（内容は二面に記載しています。）

続いて議事二では、新設校を建設する場合の必要な対応策などについて、三候補地それぞれに建てた場合、どのような問題が考えられ、どのような対策が求められるのかといったことについて、各候補地二十分程度の時間を設定し協議を行いました。

その中で、荷揚町小学校区の有効活用や地域コミュニティの成果など連携型小学校区に関する施設一体型小中一貫教育の導入などについては、住吉小学校区における意見が交わされました。

（詳細は三面以降に記載しています。）

最後に議長から、「三候補地に対する特徴や必要な対応策について、要望などが出されたこのように真剣に協議されたことそのものが大変意義あることと思います。次回は本日の協議内容を踏まえ、新設校の位置についての合意を図りたい。」との言葉があり閉会となりました。

次回は十月二十九日開催

第十三回協議会は、十月二十九日（火）の午後六時三十分から午後八時三十分まで、荷揚町小学校体育館で開催します。

各校区の特長やアピールポイントについて

※発言内容については、紙面の都合で要約しています。ご了承ください。

＜中島小学校区＞

中島については、これまでに何回か特長やアピールポイントの話をしているので、主な点に絞って発表する。

1点目として、中島が3校区のほぼ中央部に位置するということがいえると思う。今回の統合で多くの児童の通学距離が増えるということになるが、これは子どもたちへの負担という形で影響があり、子どもたちへの負担の軽減を最優先に場所を設定すべきであるという考え方で場所を選ぶとするならば、中島が新校地としてふさわしい場所であるといえると思う。それに関連して、中央部にあることから通学ルートが東西南北4方向に分散をされ、登下校時の交通安全を含めた安全の確保が必要で、安全の面からも望ましい場所であるといえると思う。また、保護者、地域の人が学校の色んな行事に参加するという場合でも、中央部にあることで参加がし易くなるのではないかということも考えられる。それから先日、防災の専門家の方から、防災の観点から色々場所の選定についての提言やアドバイスがあったが、その中に子どもたちの通学環境、それから普段の生活、こういうものを大切にして場所を選ぶべきだという話があり、こういう観点から場所を選ぶとすると、やはり中島ということになるのではないかと考える。

2点目として、中島は校地面積が設置基準を満たしているということがいえる。しかも、中島小学校地は同一の敷地内で設置基準を満たすということで、将来の児童推計でも平成31年には875名との事務局の推計値があるのだが、これに対しても基準をクリアしている。

3点目として、防災面に関して中島も他の校地とほぼ同じような状況にあり、決して安全な場所であるとは言いきれないと思うが、中島は3校区のほぼ中央部に位置するため、避難場所としての学校までの距離が近く、また他の校地と比べて危険であるといった懸念する点はないと考えている。

また、一貫教育についても、中島の場合は先生方の熱意だとか子どもたちの努力、こういったものが相まって、これまで取り組んできた連携型教育でもって、非常に顕著な成果を挙げていると考えられる。今後、統合によって小中は1対1の体制ができることで更に連携型の進化、向上が期待できると考えている。

＜荷揚町小学校区＞

東日本大震災に対処する知恵を発揮する必要が我々に求められていると考えており、地震をコントロールすることはできないが、地震の被害を最小限にするための努力は可能なので、地震対策について十分なものをしてほしい。

専門家の意見は3校地のどこに新校舎を建てても「大差はない」との結論であるが、中差、小差はあるのではないかと思う。その中差、小差において、より多くの子どもたちの命を救うことが必要ではないかと思うが、専門家の意見には通学途中の安全性が考察されていないことが一番気になるところである。

学校にいる間は十分な施設等を造れば対応できるが、登下校中の安全性確保の面で危惧することから、どの校地に新設校が建設されることになっても、海岸寄りから通学される子どものために津波避難タワーを設置してほしい。荷揚に建設するのであれば公共の高層建築物が周辺にあり、登下校中の避難にも活用でき、そういう意味で荷揚であれば津波避難タワー建設の必要があまりないと思うが、もし他校区に立地する場合には、津波避難タワーの収容能力をあげる必要があると思う。なるべくなら海岸や川より離れた場所に建設することが子どもの命を救うことに繋がり、安全性に信頼がおける場所にしてほしいというのが多数の意見ではないかと思う。荷揚校区では他の校区に新設校が立地した場合、隣接校に入学したい方が何名かいると聞いているが、もし荷揚に立地されればそのまま荷揚に入学する可能性が強いと聞いているので、そういう意味で荷揚の優位性があるのではないかと思う。

今後は中心市街地活性化計画等が計画され、中心部は相当の人口増が予想される。また、大地震等になれば2万人超の帰宅困難者が考えられ、駅よりあまり遠くない地に施設を造っておく必要があり、そのような対応策が碩田中学校区の責務ではないかと思う。そういう意味で、荷揚町小学校区の優位性を感じている。

新設校が建設されない残りの2箇所には、現状のような地域コミュニティ活動ができることが保障される施設を十分に対応してもらいたい。全体として荷揚、中島、住吉それぞれの地域の方々が納得できるようなものにする必要があるのではないかと思う。

＜住吉小学校区＞

協議会で議論していることは、今後の碩田校区の学校の発展はもとより、学校を中心としたまち全体の活力にも結びついていなければならないと考えるので、施設一体型小中一貫教育校の新設を希望する。

大分駅周辺の中心部が開発で活性化へと変わってきている反面、197号線よりも北側の開発や予算の投入が今後見込めない中で、今回の適正配置は今後50年の碩田校区で一番大きな予算の投入ではないかと考える。これを利用して若者が住みたいまちへと変貌しなければ、高齢化が進む地域としては自治会組織の衰退にも繋がりかねない。また、碩田校区に住みながら私立や他の学校へと通う子どもが多くなったり、大道小や春日町小等も校舎が新しくなり、校舎が新しいからといってそれだけで碩田校区の新設校に通わせようという保護者は少ないと思う。

そのような背景から、碩田校区に施設一体型小中一貫教育で、教育の観点から若者に興味を持ってもらい、住んででも行きたい学校、行かせたい学校を創ることが、今後子孫から「チャンスがこの世代にあったのに何してたんだ」と言われないための唯一の施策と考える。賀来小中は地価が上がるほど学校人気が上がり、住んででも行きたい学校へとなっている。一時期は小中一貫教育に反対する声もあったが、今は「子どもたちが落ち着いた」、「子どもたちが優しくなった」などのプラス面が大きく実績として表れている。だからこそ施設一体型小中一貫教育のチャンスがあるのに、「大変だからやらない」、「分からないから今はやめておく」とは子孫には言えないと思う。碩田校区は学校を中心に、まち全体も日本に、世界に誇れるよう挑戦することが、協議会のやるべき責務ではないかと思う。今こそ4校で、施設一体型小中一貫教育で新たなスタートを切ることが、まち全体の活性化にもなるのと考える。

職員室が1つになり先生が連携して、小1から中3までの成長を多くの先生で導き、見守ることができるのは施設一体型小中一貫教育以外にない。そこに寄与するのがやはり広い校地での一体型校舎の建設ではないか。先生は一体型で関係を深め、保護者や地域も公民館機能を備えた体育館や地域に開かれた図書館等を利用し、保護者、地域が関係を深め、碩田校区全体で学校を支えることが可能となり、誇れる地域の学校となるのではないかと思う。

3候補地に新設校を建設した場合に必要な対応策などについて

※発言内容については、紙面の都合で要約しています。ご了承ください。

◎は発表者の発言　○は委員の発言　●は事務局の発言

【荷揚町小学校地に新設校を建設した場合】

◎現在の荷揚町小学校地は7,375㎡だが、府内こどもルームや市の立体駐車場、道路を隔て公共の用地が隣接しているので、これらを有効活用し、さらに敷地内の建物を多層階利用すると十分に色んな施設ができ、敷地面積に関する問題も十分に校地内でクリアできるのではないかと思う。教育委員会は隣接地の買収等は考えていないとのことだが、公共用地の活用であれば他の部局との交渉次第ではないかと思う。交渉次第では他の公共用地を活用してコンパルホールのように、より多くの年代の方々を収容するような施設ができるのではないか。また、小1プロブレムを解消するために、小学校に入る前の幼稚園からの一体化ということも考えてもよいのではないかと思う。そういうことができる学校も大いに地域住民の方、地域外の方にもアピールできる学校になろうかと思うし、中心部に勤務される方にとっても、夜遅くまで保育あるいは児童の教育ができるようになれば、またアピールポイントになるのではないかと思う。

　そういう中で課題としては、例えば荷揚町小学校地に新設校を建設した場合に、住吉校区、中島校区の地域住民の方々のことも当然考えなければならない。地域住民の方々にとって、現状以上であることがまず最低条件ではないかと思う。そのために現状の施設をそれなりに活用できる対策をとるためには、相当の予算が必要になってくると思う。1校区に学校ができ、残りの2校区において、予算執行が少ないというのであれば現状より悪化する校区が2校区できてくることになり、残り2校区の方々にとってはやはりそれは許されないことではないかと思うので、教育委員会だけではなく市役所の他の部局の方も含めて、今後の大きなまちづくりの一環として小学校をどう考えるのか、あるいは残りの2校区についてはどう考えるかということについて協議することを要望したいと思う。

○学校は地域コミュニティの核であるが、新設校以外の校区にはなくなるわけなので、代替するような施設をぜひ造ってほしい。また、併せて避難場所がなくなるとのことなので、避難場所としても機能し得るような代替施設を確保する必要がある。これは3校区共通なので、新設校以外の２校区についても対応策が必要である。

○荷揚町小学校地では統合するには校地が狭すぎて、小学校の設置基準をクリアすることが不可能と思っていたが、荷揚校区の対応策の発表では、こどもルーム等の市の施設を教育委員会が買収し、荷揚町小学校の敷地にするとしていたが、教育委員会はどう捉えているのか、見解があれば聞かせてほしい。

●市有地を活用できないかとのことだが、現に利用している土地なので関係部局との協議が必要になり、かなりの時間を要することから困難である。

○府内こどもルームや周辺設備を活用して校地に活用したいということだが、いわゆる「たられば」的な話で、今の段階では実現性が分からない。できるだけこのような議論は避けるべきだと思う。

○コミュニティの核となる学校施設が新設校以外ではなくなるとの意見だが、決してなくなることではなくて、碩田校区の中に1箇所だけ統合されて新たにできるという解釈でないと、今あるところにそれぞれ同じような形で残すというのは、予算も効率上から非常に難しい問題ではないかと思う。やはり新しい学校を核として新しいコミュニティを創るとの考え方に立つべきではないかと思う。

○市有地を活用するとのことであり、買収するとのことではない。中心地の荷揚に統合校を造るのがベストと判断すれば、土地を確保すれば良いと理解している。また、屋内運動場は高層にした上で、屋内運動場としても屋外運動場と併せれば、十分対応できると考える。

【中島小学校地に新設校を建設した場合】

◎防災対策は津波の対応が重要になると考える。津波は地震発生から津波到達までタイムラグがあり、南海地震等であれば１時間強あることから、この間にいかに安全かつ迅速に避難できるかが非常に重要になるのではないかと思う。このため、児童は避難訓練等を計画的に実施し、登下校中では地域防災会と連携し、地震ではいち早く周辺の避難ビルに子どもを連れて行くなど、地域住民と協力体制を作ることが必要と考える。

　中島では地理的な関係で施設一体型小中一貫教育やその運営は難しいと考える。また、施設一体型と連携型との比較検討がまだ全く進んでいない中で、施設一体型の導入の考えは現時点では拙速であると言わざるを得ない。先般の小中一貫教育に関する講演会でも「教育の成果というのは、いわゆる型の違いということよりも、むしろやり方の問題だ」という話があったが、中島小では先生方の熱意や児童自身の努力も大いにあると思うが、連携型で顕著な成績をあげている。施設一体型の提案が出ているが、現時点で施設一体型の必要性は特にないと中島校区は考える。

　駐車場は数名の保護者や地域の人が所用で来るという場合は、校地の中にその程度の駐車場は確保できると思うが、数十台規模の駐車スペースが必要とのことであれば、それほどの広い駐車場がある学校はないと考える。したがって、新設校を選定する上で、駐車場は不可欠な要因ではないと考えてよいのではないか。

　中島校区に新設校が決まった場合では建設工事中の対応が問題になるかと思う。仮設校舎等の設置が必要と思うが、これはどの校地の場合でも同じ問題が出てくると思う。例えば碩田中学校地に新設する場合でも中学生の運動場がなくなるので、運動場を別に確保しなければならないとの問題が出てくるのではないか。

○小中一貫教育について、連携型で一定の成果が出ているということだが、例えば何年生の試験で成果が出ているとか、全国を対象としての成果とか、成果に関して何か基準みたいなものがあるのか教えてほしい。

○今年度の全国学力テストが６年生と５年生であり、結果については定着度でクリアしており、全国平均を上回っている。また、２年生から４年生まで国語と算数に教科を決めて実施しており、その結果も学力レベルの数値、学力の解答率などでかなり成果をあげていると聞いている。連携型でも力を注げば、このような成果が生まれることを裏付けている。

【碩田中学校地に新設校を建設した場合】

◎碩田中学校を中心に円を書くと、碩田中学校区でいえば碩田中学校が中心だが、子どもたちの通学距離や交通状態を見ると、荷揚町の中央町などから40m道路を超えて低学年の子どもたちが通うということでは、やはり低学年の対策が必要だと思う。登下校時に児童が自分の身を自分でいかに守るかということは、やはり校区としても考えていく必要がある。なお、荷揚校区や中島校区を見る限りでは、見守り活動が小学校に対してしっかりできていると聞いているので、そういう対策として道筋はできているのではなかろうかと考えている。もし、碩田中学校地になった場合では、中学生も一緒に登下校をするので、安全は確保できるのではないかと考えている。

小中一貫教育については、1000人を超えるという大規模校に対して不安があるということもあるが、施設一体型に対しては問題とは捉えていない。これは解決できる課題として捉えているので、教育委員会、地域も含めて、保護者も協力しながら先生方を中心に良い学校を創れるのではないかと思う。

放課後育成クラブの運営については、新設校の1箇所にまとまるということになるが、人数の多い他の学校も1校で育成クラブを運営しているので、運営上では問題がないと思う。ただし、朝は集団登校するなどして解決できると思うが、夕方はどのように子どもを帰宅させるのかが課題となるので、例えば中央町、荷揚町の遠いところに関して、低学年を何時に帰宅させるというプログラムなどの対策が必要と思う。

○碩田中学校地を母体にして住吉小学校地も活用するとのことで、住吉校区としては論議を進めている。碩田中学校の中に小学校を造れば、小学校低学年はそこで運動もでき、授業は今のままの小学校ででき、後々は住吉小学校を運動場に使うだとか、色々な面で十分に進めていけると思う。

○碩田中学校地に施設一体型で建設する場合、碩田中学校地と住吉小学校地を併せて設置基準とするのかを確認したい。碩田中学校地に建てるとのことであれば、設置基準は今の碩田中学校地での基準とするのか、住吉小学校地と碩田中学校地で設置基準とするのか。両方一緒にまとめて設置基準にして校舎の建築場所を決めることを教育委員会は考えているのかどうかは、大きな判断材料になると思う。

●小学校は小学校の設置基準があり、中学校は中学校の設置基準がある。碩田中学校地の面積は中学校の設置基準も小学校の設置基準も両方の基準を十分にクリアしている。例えば碩田中学校地に小学校と中学校の施設一体型になったとしても、双方の基準面積をクリアしていることになる。

○特長やアピールポイントで、地域開発と若者へのアピールとのことだが、中島や住吉校区は開発するにしても、広い土地があまり空いていないと思う。また、若者のターゲットはどの辺りを考えているのか教えてほしい。

○転勤等で県外から転入する時に、賀来小中学校が良いとのことで移り住む方がいると聞いている。そのように碩田校区が良いと言わせるように、何か特化してアピールできるような地域性、学校性を持てれば良いのではないかと思う。ターゲットは、そういう風に子どもをここの学校に通わせたいという保護者が対象である。

○中島校区の住民は、海の方に向かっていくことに対し危惧しているので、津波対策について何か対応策があれば教えてほしい。また、施設一体型は本当に良いとのことだが、賀来小中学校は1小1中であり、照葉小中学校は人工島に建てた学校なので、文化や地域性が違う。実際に子どもたちは沢山の課題を持っているので文化や環境の違う3校が集まった時の課題解決の方策はあるのか教えてほしい。

○津波対策については、地域としてまとまって防災の訓練をしており、目標を持って頑張っている最中である。また、課題解決の方策としては、やれないということはまず思わないので、絶対にやれるということで何事にも臨むので、私は子どもはやれると思う。大人の頭でやれないと思っているから、それを見て子どもが学ぶのであって、大人がやれると思って自信を持って挑んでいけば、子どもはいくらでもついてくると思う。

第12回協議会で確認した事項

○第13回地域協議会は10月29日（火）の18：30～20：30に荷揚町小学校体育館で、第14回地域協議会は11月26日（火）の18：30～20：30に中島小学校体育館で開催すること。

＜編集後記＞

協議会では、協議会の様子を広くお知らせするため、定期的に協議会だよりを発刊しています。また、協議会における当日の資料や協議会の会議要旨などについては、市のホームページでも公開しています。

今後とも、協議会へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いします。

碩田中学校区適正配置地域協議会だより「第12号」

発　行：平成25年10月
発行者：碩田中学校区適正配置地域協議会
事務局：大分市教育委員会教育企画課
連絡先：（住所）　大分市荷揚町2－31
（TEL）　097-537-5903（直通）
（E-mail）kyoikukikaku@city.oita.oita.jp